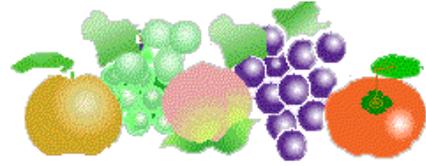


# 令和4年度 しらかわ果樹情報第7号



令和4年8月9日  
福島県県南農林事務所農業振興普及部

## 1 気象概況（表1）

7月4半旬から7月6半旬までの平均気温は24.7℃で平年より1.2℃高くなりました。また、この期間の降水量は121.0mmで平年の109.3%、特に7月6半旬の降水量は90.0mmで平年の240%となりました。日照時間は63.8時間で平年の93.8%となりました。

表1 月別気象表（白河市）

平年：1981～2010年

月	半旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比（%）	本年	平年	平年比（%）
7	4	23.5	22.8	0.7	27.5	27.5	0.0	20.3	19.4	0.9	9.5	38.2	25	15.9	18.9	84
	5	24.7	23.4	1.3	29.6	28.2	1.4	20.9	19.8	1.1	21.5	33.6	64	21.4	20.7	103
	6	25.8	24.1	1.7	31.1	29.2	1.9	22.3	20.4	1.9	90.0	37.5	240	26.5	28.4	93
平均・合計		24.7	23.4	1.2	29.4	28.3	1.1	21.2	19.9	1.3	121.0	109.3	110.7	63.8	68.0	93.8

## 2 向こう1か月の天候の見通し（8月6日から9月5日まで）

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。週別の気温は、1週目（8/6～8/12）は高い確率が70%、2週目（8/13～8/19）は高い確率が70%、3～4週目（8/20～9/2）は高い確率が50%です。

## 3 生育概況

### （1）果実肥大（白河地方）

満開後日数比較では、平年と比較して「幸水」ではやや小さく、その他の品種は平年並の状況です（表2）。

表2 白河管内の各品目の果実肥大状況（8月1日時点）

	幸水		豊水		ふじ	
	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
今年（mm）	52.9	63.9	54.0	60.7	58.3	65.4
平年（mm）	51.0	61.2	49.2	54.7	55.5	61.9
平年比（%）	104	104	110	111	105	106
昨年（mm）	50.0	60.0	53.1	23.9	55.0	65.2

注）調査地点：「幸水」「豊水」は白河市東上野出島、「ふじ」は白河市本沼

### （2）モモ「あかつき」収穫状況（白河地方）

収穫開始は7月27日で昨年と比べて2日遅くなりました。果実重は217.2gで平年比80%、糖度は13.6度で平年より高くなりました。

※調査園では摘果作業の遅れ等により果実肥大が小さくなりましたが、他の園地では概ね平年並以上の大きさとのことです。

#### 4 栽培上の留意点

(1) 共通（梅雨期の降水量が少なかったため、土壌水分の把握に努めましょう！）

ア 土壌の水分管理

1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

一方、土壌が過湿条件にあると、葉の褐変や黄変落葉を引き起こす原因となるので、雨が続き園地で停滞水が発生する場合は、排水対策を徹底しましょう。また、落葉が見られる場合は着果量の見直しを行いましょう。

イ 草刈り、マルチ

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう。また、稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) モモ

ア 晩生品種の収穫前管理

- ・中生品種同様、晩生品種の収穫期も平年より早まることが予想される。今後、「川中島白桃」、「ゆうぞら」等については果実肥大が盛んな時期に入るので、適期に修正摘果を実施し、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シート設置など収穫前管理を計画的に実施する。
- ・強風や多雨による枝折れに注意する（樹勢低下している樹は特に！）。
- ・有袋栽培では、今後の天候が曇天で経過する場合に、除袋の遅れにより着色不良となることがあるため、着色管理作業も計画的に行う。
- ・降雨により園内に停滞水がみられる場合は、明きよを掘るなど速やかな排水を心がける。

(3) ナシ

ア 収穫予測

- ・白河市における「幸水」の収穫盛期は、今後の気温が平年並に推移した場合、8月26日頃で平年より3日早い見込み（8月1日現在、果樹研DVRモデルより算出）。

イ 修正摘果

- ・裂果した果実、変形果、小玉果、果点コルク間の地色が白い果実（肥大が停滞しやすいため）を摘果する。  
★満開後110日（8月9日）時点で下記が大きさが目安★  
2L(32玉)：果実横経 76mm M(40玉)：果実横経 64mm
- ・「豊水」は満開後120日頃（白河市：8月16日）を目安に修正摘果を実施する。着果過多は休眠期の紫変色枝枯症の要因となるので、「幸水」並の着果量（10a当たり10,000果）とし、適正着果に努める。

(4) リンゴ

ア 早生種の収穫前管理

- ・気温の高い日が続いており、日焼け果の発生が確認されている。葉摘みは、直射日光の当たりにくい部位から行き、日焼け果の発生状態を確認しながら数回に分けて行う。
- ・地色の緑色が強い時期に早めに摘果を行うと、日焼け果の発生を助長するので注意！

イ 落果防止剤散布

- ・「つがる」の落果防止剤としてストッポール液剤を用いる場合には、収穫開始予定日などの農薬使用基準に十分注意して散布する。

ウ 修正摘果

- ・中晩生品種は、果実の大きさ、果形、サビ、日焼けの有無等をよく見て修正摘果を行う。

## (5) ブドウ

### ア 新梢管理

- ・長梢栽培では、一定の葉数が確保された8月以降の摘心は、果実品質の向上と新梢の充実が期待できる。**8月上旬になっても伸長が続いている強い新梢は、20～25葉程度を目安にそれより先を摘心する。**摘心を実施した後も棚下が暗い場合は、新梢の間引きを行うが、間引く本数は必要最小限に止める。
  - ・副梢の摘心も同時に行い、摘心した新梢から発生した勢力の強い副梢は、**基部の2～3葉を残して摘心する。**
- ※ハウス内で栽培している場合は、日焼けを防ぐためさらに1～2葉多く残す。

## 5 病虫害防除上の留意点

【収穫期に入っているため、薬剤防除は収穫前日数に十分注意しましょう！】

### (1) 病害

#### ア モモ灰星病、ホモプシス腐敗病

- ・灰星病については天候の推移に注意しながら、灰星病防除剤を使用する。晩生種に対してはホモプシス腐敗病の防除対策も必要であるため、**8月10日頃にベルコート水和剤を1,000倍で使用する。**

#### イ リンゴ褐斑病、輪紋病、炭疽病

- ・7月下旬における褐斑病の発生ほ場割合は、**県全体で平年よりやや高い状況にあるため**（7月28日付け令和4年度病虫害防除情報）、注意する。褐斑病及び輪紋病の防除対策として、**8月5日頃にベルコート水和剤を1,000倍で使用する。**
- ・炭疽病の発生が懸念される園地では、これらの薬剤にかえてオーソサイド水和剤80を800倍で使用する。

### (2) 虫害 ※時期は果樹研究所における推定

#### ア モモハモグリガ

- ・第4世代幼虫の誘殺盛期は、気温が平年並に推移した場合、8月1半旬頃と推定（表3）。第5世代幼虫の防除適期は、気温が平年並に推移した場合、8月2半旬頃と推定。
- ・**本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、発生源が近隣にある園地では今後も発生に注意する。**

#### イ ナシヒメシンクイ

- ・第3世代幼虫の誘殺盛期は、気温が平年並に推移した場合、8月3半旬頃と推定（表3）。第4世代幼虫の防除適期は、今後気温が平年並に推移した場合、8月4半旬頃と推定。
- ・**本種は第3世代からナシ果実への寄生が増加する。例年、ナシの果実被害が多い地域では、近隣のモモ園の芯折れを注視し、第3世代幼虫以降の防除を徹底する。**

#### ウ ハダニ類

- ・高温が続く場合は**ハダニ類の急増に注意し、殺ダニ剤の散布は草刈り直後に行う。**要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）の密度になったら速やかに防除を行う。

#### エ カメムシ類

- ・新成虫が発生する時期。**山間部及び山沿いの園地では、カメムシ類の被害を受けやすいので、飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行う。**

#### オ カイガラムシ類

- ・例年、ウメシロカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月上旬～中旬頃、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は9月中旬～下旬頃となっている。
- ・カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意し、発生状況に応じて防除を行う。

表3 果樹研究所における防除時期の推定（令和4年8月1日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第4世代 誘殺盛期	第5世代 防除適期	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期
2℃高い	8月5日	8月9日	8月10日	8月16日
平年並	8月5日	8月9日	8月11日	8月18日
2℃低い	8月6日	8月10日	8月13日	8月21日

起算日：モモハモグリガ7月17日、ナシヒメシンクイ7月18日（演算方法は三角法）

## 6 生育調査結果（8月1日現在、果樹研究所）

### (1) モモ

#### ア 新梢生長（満開後105日）

- ・「ゆうぞら」は、新梢長が19.3cm（平年比121%）、展葉数は17.1枚（平年比112%）、葉色は45.3（平年比99%）。
- ・新梢停止率は「ゆうぞら」で85.0%（平年比92%）。

#### イ 収穫状況

- ・「暁星」の収穫盛期は7月18日で平年より7日早く昨年より3日遅かった。果実の大きさは241gで平年より大きく、糖度は13.3度で平年並だった。
- ・「ふくあかり」の収穫盛期は7月24日で平年より3日早く、昨年より6日遅くなった。果実の大きさは323gで平年よりかなり大きく、糖度は13.0度で平年並だった。
- ・「あかつき」の収穫開始は7月28日で、平年より3日早かった。収穫始めの果実の大きさは382gで平年より大きく、糖度は13.3度で平年並である（表4）。

表4 モモの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	7/4	7/6	6/28	7/7	7/9	7/3	7/12	7/13	7/8	304	264	298	13.2	11.8	11.4
日川白鳳	7/1	7/13	6/30	7/5	7/16	7/4	7/7	7/20	7/8	236	236	231	12.6	11.0	11.3
暁星	7/15	7/21	7/12	7/18	7/25	7/15	7/22	7/29	7/19	241	221	214	13.3	13.0	12.9
ふくあかり	7/22	7/21	7/12	7/24	7/27	7/18	7/29	7/31	7/21	323	266	286	13.0	13.0	12.9
あかつき	7/28	7/31	7/21	未	8/4	7/24	未	8/9	7/29	382	269	298	13.3	13.0	13.8

注) 平年値は、1991～2020年（「はつひめ」「ふくあかり」は2009年～2020年）の平均

下線の値は、収穫始期の果実品質のため参考値

### (2) ナシ

#### ア 新梢生長（満開後90日）

- ・「幸水」の予備枝新梢長は111.9cm（平年比99%）、不定芽新梢長は111.8cm（平年比113%）。予備枝新梢の葉枚数は31.6枚（平年比103%）。予備枝新梢伸長停止率、不定芽新梢伸長停止率はともに100%。
- ・「豊水」の予備枝新梢長は90.6cm（平年比83%）、不定芽新梢長は85.9cm（平年比93%）。予備枝新梢の葉枚数は26.1枚（平年比89%）。予備枝新梢伸長停止率、不定芽新梢伸長停止率はともに100%。

#### イ 裂果発生状況

- ・「幸水」における裂果初発日は7月19日で平年より5日遅く、裂果発生率は0.4%で平年より低かった（平年は2.7%（2001～2020年までの平均値））。

#### ウ 成熟状況（満開後100日頃）

- ・果実硬度が11.9ポンドと平年よりも高く、糖度が9.3度と平年より低く、果皮中クロロフィル含量が15.7μg/cm<sup>2</sup>と平年より高かった（表5）。

表5 「幸水」の成熟経過

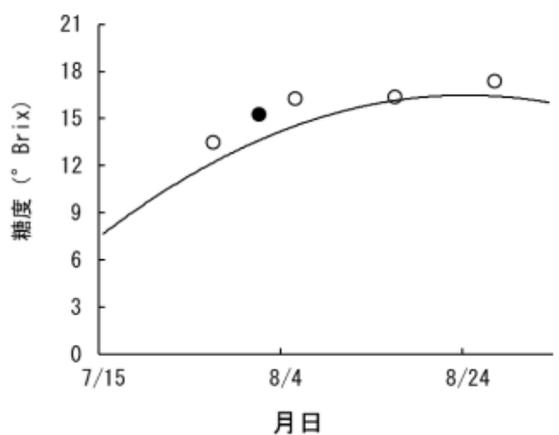
生育日数	硬度(lbs.)			地色			糖度(° Brix)			果皮中クロロフィル含量		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
100	11.9	9.7	11.4	1.2	1.4	2.0	9.3	10.4	9.9	15.7	13.5	12.6

注) 平年値は、1991～2021年の平均値、本年は7月28日(満開後98日)に調査

(4) ブドウ

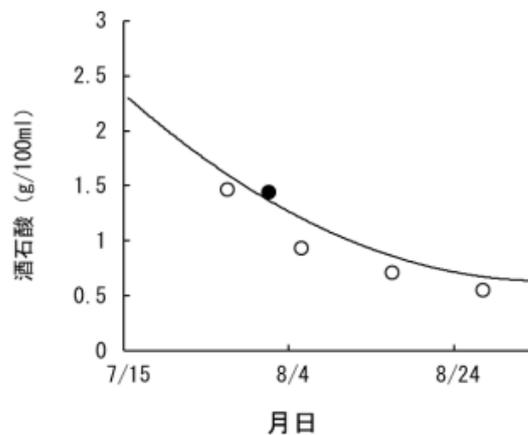
ア 成熟状況(満開後51日(「巨峰」:8月1日、「あづましずく」:7月25日))

- ・「巨峰」は、糖度が15.3度、酒石酸含量が1.45g/100mlだった(図1、2)。
- ・「あづましずく」は、短梢栽培の糖度が15.1度、酒石酸含量が1.01g/100mlであり、長梢栽培の糖度が16.7度、酒石酸含量が0.85g/100mlだった(表6)。



○ 2021年 ● 2022年 — 平年(2006-2021年)

図1 「巨峰」の糖度の推移



○ 2021年 ● 2022年 — 平年(2006-2021年)

図2 「巨峰」の酒石酸の推移

表6 「あづましずく」の成熟状況

栽培方法	年	満開後日数 (日)	1粒重 (g)	糖度 (° Brix)	酒石酸 (g/100ml)	カラーチャート値
短梢栽培	2022	51	9.1	15.1	1.01	7.6
	2021	53	14.8	15.8	0.94	6.4
	2020	53	16.9	15.1	0.93	6.6
	2019	56	11.7	14.8	0.94	6.6
	2018	53	11.0	17.3	0.62	8.7
	2017	52	11.9	15.5	0.90	7.5
長梢栽培	2022	51	8.8	16.7	0.85	7.7
	2021	53	13.4	17.3	0.68	7.1
	2020	52	13.8	16.0	0.89	7.1
	2019	58	13.7	14.0	0.94	6.7
	2018	60	11.5	18.4	0.53	9.5
	2017	64	15.2	17.8	0.51	10.2